



# ママのための日本語トレーニング

せっかくの日曜日、午前中くらいはゆっくりしたい……と思っても、朝から子どもの習い事があるとそうもいってほられませんか。できれば夫に替わってほしいと思った時、あなたなら、どんなふうに話を切り出しますか?

出口 汪 でぐち・ひろし  
大学院生時代に予備校の教壇に立ち、独自の論理的解法を駆使した講義でたちまち人気を博し、現代文のトップ講師として30年以上にわたり、教え続ける。2002年に自らの経験の集大成として『論理エンジン』を開発。執筆した受験参考書は累計600万部を超える。最新刊は小学生向けの『出口汪の日本語論理トレーニング』シリーズ(小学館)。



毎週日曜日の、小学校のグラウンドでの息子のサッカー。来月から学校の都合で、月に1回は遠方のグラウンドへ行かなくてはならなくなりました。

グラウンドは子ども一人ではいけない距離なので、「一緒にいくと平日つぶれてしまいます。できれば、日曜の朝はいつも遠くにいるだけの夫に付き添ってほしいのですが……」



「夫の休日は大切にしたい」という前提で話をはじめましょう。

妻「太郎のサッカー、来月から第3日曜だけ、練習があさひが丘小学校になったの」

夫「ふーん、そうなの」

妻「往復で2時間弱かかるから、送っていったら家に帰ってる時間ないのよ」

夫「大変だなあ」

妻「そうよ。だから、あなたが車で行ってよ」

夫「え、オレが?」

妻「あなた、どうせのんびり寝てるだけじゃない」

夫「オレは疲れてるんだよ」

妻「だって月に1回じゃない! 自分の息子のことよ!」

夫「だれか他の人に頼んで。オレは無理!」



妻「太郎のサッカー、来月から第3日曜だけ、午前中に少し離れたグラウンドに練習に行かなくちゃいけないになったの」

夫「ふーん、どうするの」

妻「お疲れのところ申し訳ないんだけど……」

夫「えっ? オレ?」

妻「あさひが丘小学校のグラウンドって、車でも家から往復で2時間弱かかるから、あなたに行ってもらえるとすく助かるの」

夫「そうか……、けっこう遠いんだな」

妻「太郎は、パパと車で行きたいって結構楽しみにしてるんだけど、いい気なものよね(笑)」

夫「うーん、太郎もその方がいいか」

妻「私が行っちゃおうと、午前中に家のことに手が回らなくて」

夫「月1なら何とかかな……」

## 今月のお題 伝える技術5

### 子どもの送り迎えを気持ちよく夫に了解させる方法とは?

## 論理アタマが育つポイント

むずかしい交渉のときこそ、一方的な理詰めでたたみ掛けるのではなく、相手の心に届く話の順序が大切。まず、夫を尊重する気持ちを伝えましょう。



「日曜日の朝」という時間は、妻にも夫にとっても憩いのひととき。それをいかにシェアするかというテーマは(私にも経験があります)、実際のところ、けっこうタフな交渉だと思えます。だからこそ、妻は夫に話を切り出す前に、もっと論理的な話の筋道を考えるべきでした。

#### 切実な時こそ、論理的に考える

自分の気持ちを理解してほしいときに、一番してはいけないことは何だかわかりますか? じつは、「感情的」になることなのです。

問題編では妻が整然と話を進めているようにも読めますが、残念ながら感情にまかせて勝手に組み立てた理屈なので、夫を納得させることができているはず。ただ、「お前は勝手なヤツだ」というネガティブな思いを残しただけに終わっています。

いくら困っていても、自分の言い分だけを並べ立てて「私の気持ちをわかって」では、どんな話し合いも上手くいくはずはないのです。

たとえば、話の持っていく方ですが、問題編のような会話の流れでは、「いつの間にかオレが行くって話になっ

たんだ」と夫はだまし討ちにあったような不快感を感じるでしょう。下線Aのように、「来月から月に一度、日曜の朝に遠いグラウンドに行かなくてはいけなくなる」と切り出せば、知っておくべき子どもの情報として夫も話に自然と関心を持ちます。そして、この情報を共有しているという感覚はとても大切です。

#### 相手を聞く気にさせる魔法の言葉とは?

交渉事に肝心なのは、いかに自分の話を相手に聞かせるか、ではありません。まず、自分が相手をどれだけ尊重しているかをどのような表現で伝えるか、です。下線①②のような「練習場が遠くなる! 私は家事が大変! だから、あなたが行って」という論法ではなく、③④のように「あなたが疲れているのはわかっていて、助けてもらえたらうれしい」という思いやりの気持ちの表現が決め手。

これは、夫婦間に限ったことではなく、家族でも仕事でも、難しい問題を交渉する時こそ、「私はあなたを尊重したい」という姿勢を最初に見せることが成功の鍵。なぜなら、その歩み寄りが相手の共感を誘い出してくれる

からです。

また、これは本人次第ですが、夫との話の前に息子さんに「お父さんと行くってどう?」と尋ねてみてください。もし、前向きな返事であれば、夫の心を動かす素晴らしい材料になります。

小学生の習い事は上述するほど、送り迎えのほかにも費用やお弁当など、親の負担は増えていきます。両親がお互いを支えあって、お子さんの成長を見守ってあげてください。



出口先生の小学生のママ向けサイトオープン!  
「グーンと伸びる、小学生のチカラ」<http://www.deguchi-hiroshi.com/kodomo/>